

佐那河内小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中一貫教育(9年間)を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

校長

松谷 薫

学力向上推進員

立本 裕子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中は、真面目に取り組んでいる。基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている児童が多い。 ●身に付けた知識・技能を他教科や別の単元で生かしたり、日常生活の中で活用したりすることに課題がある。また、学年が上がるほど、学力差が大きい。語彙の習得についても、個人差が大きい。	・基礎的・基本的な力を確実に身に付け、様々な学習場面や生活で活用することができる。 ・語彙を増やすとともに、適切な言葉や漢字を使って、文章を読んだり書いたりすることができる。	・小テストやドリル学習などを行い、基礎的・基本的な力の定着を図る。 ・個に応じた指導・支援のあり方について共通理解を深め、協働を通して学力向上に努める。具体的には、TT指導の充実や効果的なタブレットの活用、具体物を使用するなどの体験的な活動等を取り入れる。 ・読書活動や新聞を活用した学習を取り入れ、語彙を増やし、適切に使用できるよう指導する。 ・身に付けた知識・技能を活用する場面を意図的に取り入れた授業を展開する。	・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のため、継続して既習事項を朝学に取り入れていく。 ・教科書や漢字ドリルに載っている言葉などを国語辞典で調べたり、短文作りをしたりして、語彙を増やす。 ・そのほかの取組については、継続する。	・日常生活において、基礎的・基本的な知識・技能や既習事項を生かして課題解決を図ったり、各教科の学習内容を関連付けて考えたりすることが少しずつできるようになってきた。 ・週末読書やNIEに継続して取り組んだり、漢字ドリルに載っている言葉を調べさせたりすることで、語彙を増やすことができた。しかし、日記等の文章を書くときに漢字を使わない児童もあり、活用まで至っていない姿が見られる。	・生活と結び付けて考える場面を多く設定するなどの工夫や授業改善を図る。 ・漢字を使う機会を増やすために、日記や作文で既習の漢字を使うように指導する。また、筆順や字形についても丁寧に指導する。 ・幅広いジャンルの読書をするように声掛けをしたり、読み聞かせをしたりする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○文章中から正しい答えを見つけられる児童が多い。自分の考えや気持ちを自分の言葉で書いたり、発表したりする児童が増えてきた。 ●考えの根拠を明らかにし、筋道を立てて説明したり、友達の考えを受けて自分の考えを再構築したりする力に課題がある。	・既習事項をもとにして自分の考えをもち、根拠を明らかにしながら、筋道を立てて書いたり話したりすることができる。 ・自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、共通点や相違点を見出し、自分の考えを深めることができる。	・授業では、児童が考えを書いたり、交流したりする場を設定する。(書く活動を重視する) ・「聞き方・話し方ナビ」や思考ツール、考えを表現するための手引き等を活用し、自分の考えを相手意識をもって伝えたり、考えの根拠を明らかにしながら筋道を立てて話したりする力を伸ばす。 ・スモールステップで指導し、自信をもって意見を言ったり説明をしたりすることができるようにする。 ・ペアやグループ等の学習形態を工夫したり、タブレット、ホワイトボード等を活用したりして、考えを深め、学び合う学習集団づくりに努める。 ・ICTを活用して情報を収集したり、考えを共有したりできるようにする。	・ペアやグループ学習では、指導者が目的意識をもつとともに、児童にも何のための意見交流なのかを示した上で、協働的に学ぶことができるようにする。 ・そのほかの取組については、継続する。	・「話し方・聞き方ナビ」を活用したり、理由や根拠を促すような発問を工夫したりすることにより、考えを深め、互いに伝え合うことができるようになってきた。 ・高学年では、ICTを活用して自分を考えを説明する機会を多く取ったことにより、自信をもって発表したり、自分と友達の考えを比べたり深めたりすることができるようになってきた。 ・ホワイトボード・ミーティング®の活用により、児童の思考を見える化することができた。	・ホワイトボード・ミーティング®を活用し、児童の思考を深めたりまとめたりできるようにする。 ・行事や児童会活動等で、前に立って発表する機会を増やす。 ・思考ツール等を活用し、協働的に学ぶ機会を取り入れることにより、自分の考えの根拠を明らかにしながら、筋道立てて話す力をつける。 ・教員同士で、教材(メタモジ等のICT教材も)や実践の共有ができるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習や家庭学習に、意欲的に取り組むことができる。また、自分の興味・関心のあることについて、自主学習する児童が増えてきた。 ●課題解決や苦手を克服するために、自らの学びを振り返ったり、学習計画を立て見直しをもって取り組んだりすることに課題がある。また、粘り強く活動することが難しい児童もいる。	・自らの課題を発見し、解決するための計画を立て、粘り強く取り組むことができる。 ・自らの学びを振り返り改善しながら進め、自分をより高めたいという意欲を高めたり、学ぶ楽しさを感じたりする。	・主体的な学びとなるよう、単元のはじめに共に課題を設定し、計画を立て、学習の筋道を理解させる。また、振り返りの視点を示し、自身の学び方について振り返る時間を確保する。 ・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と連携しながら家庭学習の内容を充実させたり、読書の習慣化を図ったりする。また、自主勉強ノートの活用をする。 ・ICTを効果的に活用し、学習に対する興味・関心を高める。 ・個別最適な学びと協働的な学びをバランスよく取り入れた授業を展開する。	・学習規律を粘り強く指導し、児童の学びに向かう姿勢を育てる。 ・単元終末の児童の姿を設定した上で、児童の興味・関心に即した学習課題を準備し、主体的に取り組めるようにする。 ・そのほかの取組については、継続する。	・自分でめあてを設定したり、学習方法を選択したりすることによって、学習意欲が高まった。 ・個人で計画を立てるのは難しいようだったが、行事では児童が進んで計画する姿も見られた。 ・「家庭学習の手引き」の家庭での活用が十分ではなかった。自主勉強ノートについては、よい例を掲示したり共有したりすることで広めることができた。	・行事や委員会等で、児童が自ら考えて、行動できる場をつくる。 ・授業態度や持ち物の整理整頓などの学習規律を徹底する。片付けや整理整頓の仕方を写真に撮ったり、チェックシートを作って学級で確認したりする。 ・家庭学習週間を設けるなどして、「家庭学習の手引き」を活用する取組を工夫する。